

静岡市アリーナ誘致方針 概要版

はじめに

静岡市では、まちの魅力を高め、交流人口の増加や地域経済の活性化が期待される、最高峰のプロスポーツや大規模コンサートが開催可能なアリーナの実現を目指しています。

これまでの調査・検討結果や、目指すべきアリーナ像、今後の課題等について、有識者等による「静岡市アリーナ誘致検討委員会」における議論を経て、令和5年3月、「静岡市アリーナ誘致方針」を策定しました。

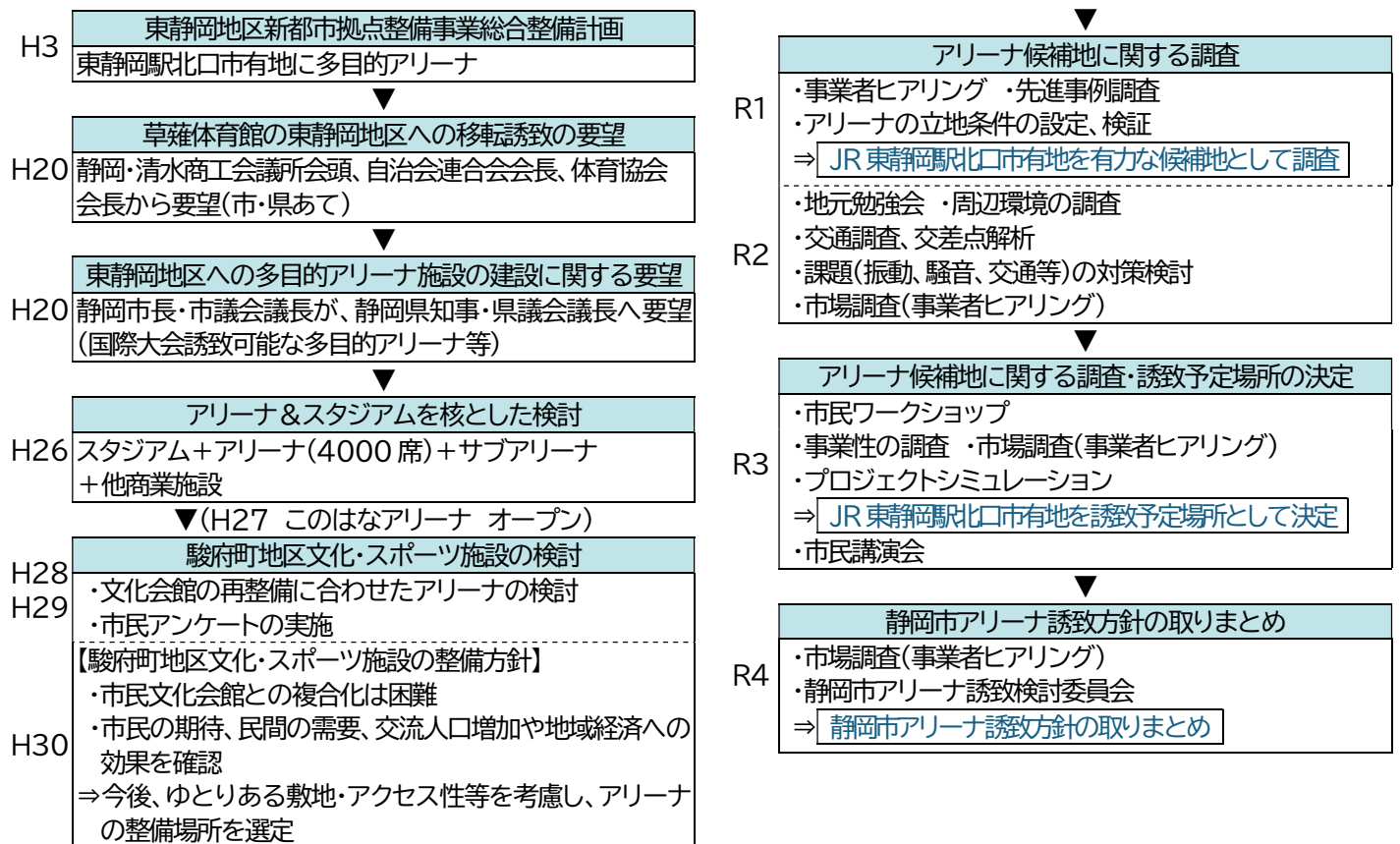
アリーナ予定地

JR東静岡駅に隣接するなど、アクセス性に優れ、県内外の広域からの集客が見込まれる「JR東静岡駅北口市有地」を、令和3年度にアリーナ予定地として選定しました。



アリーナ検討の経緯

平成3年に東静岡地区への多目的アリーナ整備が計画されて以降、これまで様々な検討や調査が行われ、令和3年度の予定地の決定、そして今回の誘致方針の策定に至っています。



● 関連計画

本アリーナや、予定地である東静岡地区は、主な関連計画等において次のように位置づけられています。

主な関連計画等	関連する内容
第4次静岡市総合計画 (R.12 議決) (計画期間:R5～R12)	【分野別の政策「文化・スポーツ」】 ・スポーツ・文化施設の整備により、スポーツを日常的に親しむための環境を充実 ・国内外から多くの来訪者が集う文化イベントを実施し、交流による賑わいがあふれるまちづくり 【重点政策「アートとスポーツがあふれるまちの推進」】 ・「文化芸術」と「スポーツ」の力を活かし、市民の暮らしが豊かになるとともに、国内外の人々が活発に交流するまちづくり ・主な取組:アリーナ整備
静岡市都市計画 マスタープラン (H28.3 改定) (計画期間:H28～R17)	【東静岡副都心地区・・・都市づくりの核(重点地区)】 ・都市拠点(都市機能と人口が集積する場) ⇒定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等 ・都市型産業機能の集積 ・魅力とにぎわいのある都市空間の形成 ・交流人口の増加
駿可まなびのまちづくり グランドデザイン (R3.3 策定) (約20年先のまちの将来像)	【東静岡地区のまちづくりの考え方】 ・「文化・スポーツの殿堂」に相応しい拠点の整備・運営を検討 ・プロスポーツの観戦や、エンターテインメント性の高い芸術・文化を楽しむ場などを創出 ・まちの賑わいづくりと学びの機会づくりを進める。

● これまでの調査結果

これまでに、アリーナ予定地の周辺環境や、事業の採算性等に関する調査を行いました。プロジェクトシミュレーションでは、音楽興行時8,000席以上の場合、大規模コンサートの開催による収益が見込まれ、維持管理・運営時の採算が取れる可能性を確認しました。

周辺環境	市民ニーズと市場調査	プロジェクトシミュレーション
【人口推移】 ・東静岡駅周辺は増加傾向 【エリア商圏】 ・県内外の広域の商圏 【観光交流客数】 ・県:増加傾向 ・市:横ばい状態 【周辺の商業・宿泊機能】 ・周辺に商業施設 ・静岡駅周辺に宿泊施設 【交通インフラ】 ・JR 東静岡駅至近 ・静鉄長沼駅徒歩5分	【市民ニーズ】(H29アンケート) ・エンタメ性の高い芸術文化 ・最高峰のプロスポーツ 【市場調査】(R2～4ヒアリング) ・広域から集客できる駅前立地 ・音楽イベント、プロスポーツで一定の需要、利用が見込まれる。 ・5,000席、8,000席、10,000席規模のアリーナの可能性	民間事業者の参画意欲が高かった、以下の3パターンについて事業収支を試算 【①音楽イベントなし・スポーツ5,000席程度】 ・維持管理・運営時の採算が取れない。 【②音楽8,000席・スポーツ7,000席程度】 【③音楽10,000席・スポーツ9,000席程度】 ・維持管理・運営時の採算が取れる可能性を確認 ・施設整備費等を含めると、独立採算は困難

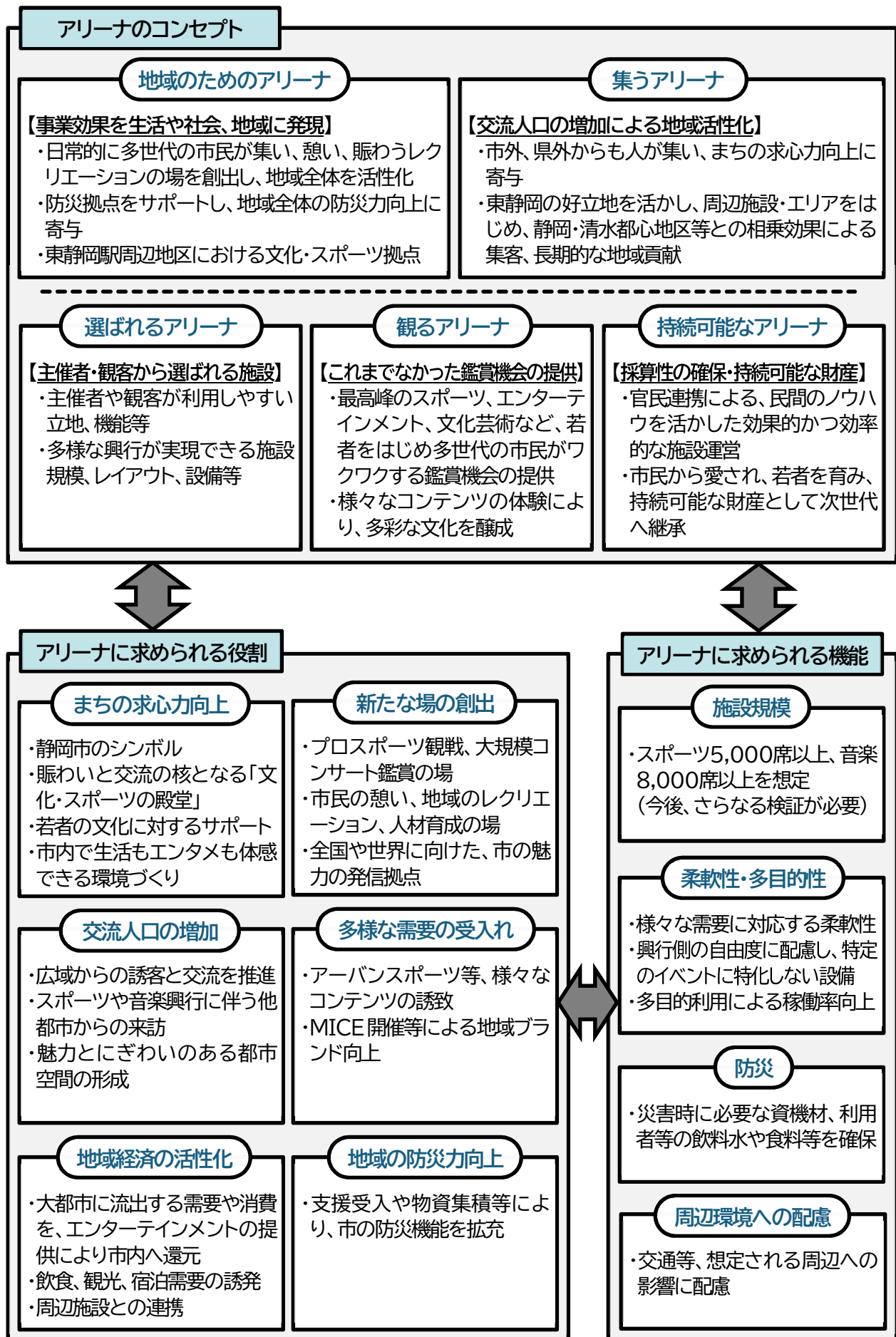
● 類似施設の状況

市内では次のとおり、5,000席以上を確保した最高峰のプロスポーツ興行や、著名アーティストによる大規模コンサートなど、各種のエンタメイベントを開催できる施設がなく、類似施設とのすみ分けが可能な状況です。

市内・県内の類似施設の状況				
	B2リーグ ライセンス基準		B1リーグ ライセンス基準	
	2,000～3,000 席	3,000～5,000 席	5,000～7,500 席	7,500～10,000 席
スポーツ	●このはなアリーナ 最大収容 4,000 席		●浜松アリーナ 最大収容 7,600 席	
エンタメ	●市民文化会館 ●マリナート ほか	●エコパアリーナ 最大収容 10,000 人		
	ミュージカル／演劇・ 地元楽団・団体利用等	流行りのアーティスト、大規模なライブの実績は少ない もののブレイクして人気が定着したアーティスト等		大規模な全国ツアーを開催 できる著名アーティスト等
展示・式典	●グランシップ 最大収容 4,626 席		●ツインメッセ北館 最大収容 6,000 人 ●ツインメッセ南館 最大収容 6,500 人	
	市内の施設	市外（県内）の施設	市内施設では開催できないイベント規模	

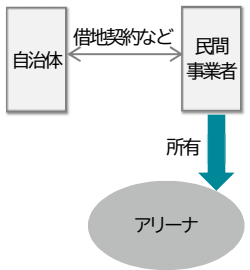
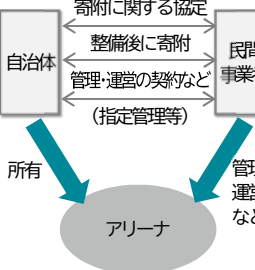
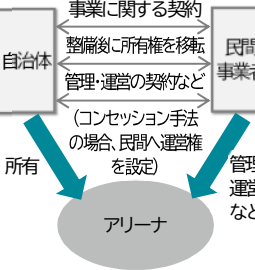
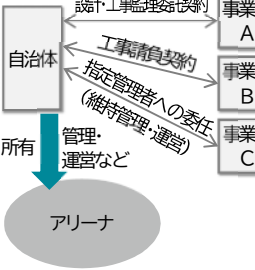
● 目指すべきアリーナ像

関連計画やこれまでの調査結果をふまえ、アリーナ予定地のJR東静岡駅北口市有地において目指すべきアリーナ像として、アリーナのコンセプトや、求められる役割、機能を次のとおりまとめました。



● 想定される事業手法

目指すべきアリーナ像の実現に向けて、民間活力を最大限導入し、効果的かつ効率的な施設整備・運営を前提として、今後、次に示す民間主導の事業手法のうち、事業者の参画意欲が見込まれる最適な手法を検討していきます。

手法	民設民営	負担付寄附	PFI 事業 (BTO・BT+コンセッション等)	(参考)従来手法
スキーム図				
民間の メリット・ デメリット	・最も自由度が高い整備、管理・運営が可能 ・整備費を全て負担する必要がある。 ・固定資産税等の負担が生じる。	・自由度が高い整備、管理・運営が可能 ・整備費を全て負担する必要がある。	・従来手法と異なり、民間提案により運営を考慮した施設整備が可能 ・市場調査の結果、参入意欲が最も高い。 ・公共的な機能を考慮した整備、管理・運営が必要	・分離発注された各業務を、市の仕様に基づき実施するため、事業に参入するリスクが少ない一方、ノウハウの発揮が限定的
市(行政)の メリット・ デメリット	・固定資産税等の税収が見込まれる。 ・公共的な機能(※)の付加や、市の意向の反映が難しい。	・主に運営段階で、市の意向の反映が可能 ・公共的な機能の付加が難しい。	・民間のノウハウを活用し、効果的かつ効率的な整備、管理・運営が可能 ・公共的な機能の付加や、市の意向の反映が可能 ・基本的に整備費は市負担	・公共的な機能の付加や、市の意向の反映が可能 ・民間のノウハウを活用した整備・運営ができず、採算性の確保が見込めないため、市の負担額が最も大きい。

(※)公共的な機能・・・防災機能、市民の憩いの場など

● 今後対応すべき課題

本アリーナの実現にあたっては、アリーナ予定地の周辺環境への影響について調査・検討し、必要な対策を講じるとともに、本アリーナの需要や採算性、経済的・社会的効果、事業の実施条件、官民の役割分担など、民間事業者が参入するための事業性を精査していきます。

項目	アリーナ予定地の調査	周辺環境への影響・対策	事業性の精査
主な課題の 概要・ 検討内容等	・地質調査、基礎構造の検討 ・埋蔵文化財調査等	【交通】 ・電車の運行や駅の混雑等への影響 ・周辺道路の渋滞対策(送迎車両の対応等) ・周辺地域やアリーナ予定地内における観客の動線 【騒音・振動】 ・地域住民や周辺への影響に配慮した対策	【需要等】 ・広域の興行、市民・関係団体の需要調査 ・エコパアリーナ等、周辺施設との競合 ・平日の稼働率向上の検討 【事業性・事業の実施条件等】 ・事業効果の検証 ・事業採算性、財政負担の検証

● 今後の進め方

令和5年度以降は、今後対応すべき課題をふまえ、次のとおり各種調査などを進めていきます。加えて、地域の方々との対話や、市民の機運醸成など、市民に対して丁寧に説明を行いながら、本アリーナの実現を目指していきます。

